

2021年10月20日
トヨタホーム株式会社

2021 年度グッドデザイン賞を4件受賞

ベスト100に「クルマde給電」が選出
街づくりはトリプル受賞
「ミヨシミライト」、「ザ・シェブロンノット」、「ザ・セントラル」

トヨタホーム株式会社（名古屋市東区泉一丁目23番22号、取締役社長 後藤裕司）は、2021年度グッドデザイン賞（主催：財団法人日本デザイン振興会）において、「クルマde給電」がベスト100に選ばれました。また、愛知県みよし市の「ミヨシミライト」、千葉県印西市の「ザ・シェブロンノット」、東京都昭島市の「ザ・セントラル」の3つの街づくり分譲事業でトリプル受賞しました。



<クルマ de 給電>



<ミヨシ ミライト>



<ザ・シェブロンノット>



<ザ・セントラル>



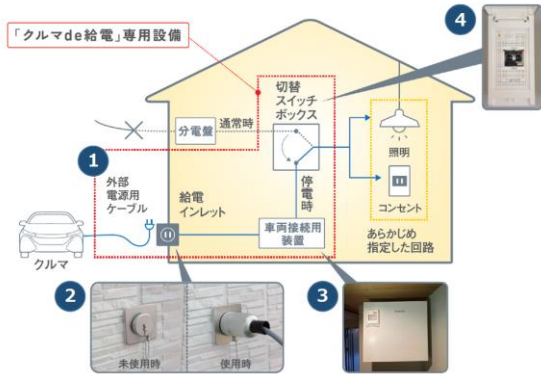
トヨタホームは「建てる時の安心」「建てたあとも安心」「支える安心」の三つの安心をお届けし、60年長期保証[※]制度などで生涯サポートします。

※ トヨタホーム販売店による点検と適切なメンテナンスが必要です

■クルマ de 給電

クルマ de 給電は、停電時に住宅へ電力を供給する外部電源として、HEV・PHEV といった車両に搭載される AC100V・1500W アクセサリーコンセント(非常時給電システム付)やビークルパワーコネクタから、住宅内特定回路※1へ電力供給できる業界初の非常時給電システムです。冷蔵庫や照明、扇風機、スマホ充電などの生活に最低限必要な家電類へ電力供給できるようになり、在宅避難がしやすくなるなど、防災・減災がより身近なものとなります。

※1…住宅全体ではなく、リビング、キッチン、各居室など、住宅内の特定エリアのみをカバーし電力供給する回路のこと。

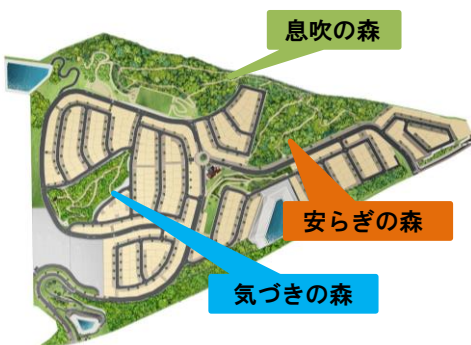


【グッドデザイン賞ベスト 100 講評】

車から住宅への充電システムは、以前よりモーターショーなどで展示されてきたが、最近の EV 車の普及で、より現実性の高い製品が提供された。特に、コロナ禍では災害時の避難は自宅が有効とされる新たな現実が判明し、災害時に自宅で過ごせるための充電システムは必須である。本品は、主婦や子供でも簡単に接続できる使い勝手の良さや住宅の外観に支障がないようにデザインされている点が優れている。将来的には住宅の当たり前の機能となっていくべきで、今後もこのシステムが普及できるように業界全体に働きかけていただきたい。

■ミヨシミライト

愛知県みよし市で 2020 年 6 月に販売を開始した戸建分譲地「ミヨシミライト」(全 288 区画)は、愛知大学名古屋キャンパス跡地に「テクノロジーの力をちょっと借りてスマートに 森と暮らす」をコンセプトとし、自然と先進性を融合した街づくりです。街全体の約 3 割を森林として残し、既存の樹木の保全や生物多様性の創出など、自然と共生する豊かな暮らしを実現する一方、災害時は街の中心に置いたコミュニティハウスが一定期間エネルギーを自給できる防災拠点となり、周囲の戸建てと連携してコミュニティ ZEH を形成する「いつもともしも(災害時)」の暮らしやすさが両立する街です。



【グッドデザイン賞講評】

手つかずの自然は貴重だが、新しい住宅地との一体感はなく、住民が愛着を持って管理することは難しい。「ミヨシミライト」では、受け継いだ豊かな自然が住宅エリアに入り込むような形で残されており、森と住宅エリアの境界はない。森全体に整備されて約 1,400mの散策路は、日々の変化を楽しみながら大人も子供も安全に自然とふれあうことができる。住宅と森が渾然一体となった本プロジェクトは、住民が自発的に森の保全活動に関わる仕組みなど、ハード、ソフト面ともにアイデアに溢れており、新しい住宅開発のモデルケースとなるであろう。ぜひこの知見を今後の開発に活かしていただきたい。

■ザ・シェブロンノット

 GOOD DESIGN AWARD 2021

千葉県印西市で2021年7月に販売を開始した戸建分譲地「ザ・シェブロンノット」(全136区画)は、従来の水平垂直の土地形状、建物配置と異なり、区画割と建物配置を接道に対してシェブロン(やま形の幾何学図形)型に配置した新発想の街並みです。画一的になりがちな街並が雁行区割により変化が生まれ、表情豊かな街並を実現。住民同士の視線を緩和するとともに、リビングや庭前の開放感や採光、プライバシーを確保し、街全体の区割設計からゆとりを創出しました。



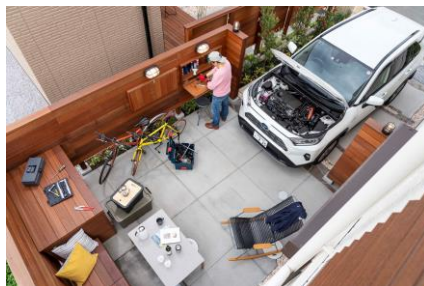
【グッドデザイン賞講評】

大型戸建開発において、住戸配置を全戸雁行配置としたプロジェクトである。ずらしながら斜めに住戸を配置するだけで、視線が正対せず、光や風が抜け、外観が豊かになる。また台形やひし形となった各専用敷地は、矩形の建物を配置すると必然的に小さな隙間が現れる。車道との間にフェンスがないこの隙間を緑化することで、いっそう通りに表情が溢れ出てくる。本プロジェクトは雁行配置の可能性が大いに発揮されているが、今後も大型戸建開発だからこそできる街の創り方を模索してほしい。

■ザ・セントラル

 GOOD DESIGN AWARD 2021

東京都昭島市で2021年6月に販売を開始した戸建分譲地「ザ・セントラル」(全157区画)は、国営昭和記念公園に隣接し、都市と自然の魅力を融合した庭園邸宅街区がテーマ。また独自のセレクトシステム「MY WORLD FITTING LIKES(マイワールドフィッティングライクス)」を新たに導入し、分譲物件でありながらお客様の好きな世界感に近づけることができる住まい選びを提案いたします。また狭小敷地において2台目駐車場をライフスタイルにあわせて多目的に使える外部空間とし、車専用の場所から人・モノ・コトを繋げる新しい「多機能型空間」としました。



【グッドデザイン賞講評】

郊外の車両2台分の駐車場の一マスを多目的な外部空間にしているアイデアであるが、よくよく写真を眺めるとなんとも楽しい気分が伝わってくるのである。これが、内部空間の土間のような場所であったならば、よりプライベートな空気感が街路から感じられるだろうが、駐車場の一マスなのだから、堂々と道路を占拠してしまったかのような開放感というのだろうか。より使い手にパブリックな振る舞いを促し、道ゆく人にもある種の楽しさを感じさせるアイデアなのではないか。

以上



トヨタホームの省エネ・創エネの家づくりやバリアフリーの暮らし方、災害に強い家の提案、さらには環境に配慮した生産・施工現場などは、いずれもSDGsのターゲットに合致するものです。トヨタホームは今後も、住まいに関わる様々な事業を通じ、お客様と社会に貢献する企業として成長してまいります